

亀田地区公民館運営審議会 会議概要

1 開催概要

- (1) 名称 第9期 第2回 亀田地区公民館運営審議会
- (2) 日時 令和5年12月15日(金) 午前10時00分～午前11時35分
- (3) 会場 亀田地区公民館 多目的ルーム
- (4) 出席者(敬称略)
 - ①委員 植木京子、遠藤由美、大橋正治、小野幸男、齋藤真人、齋藤裕
坂井幸恵、弦巻真里枝、戸田道治(五十音順)
(欠席) 阿部菜月
 - ②事務局 【亀田地区公民館】立川正史(館長)、鈴木直美、佐藤敏男
【曾野木地区公民館】山上実(館長)
【横越地区公民館】山本英二(館長)
- (5) 傍聴者 0人

2 審議内容

- (1) 令和5年度 事業経過報告について(亀田・曾野木・横越)
- (2) 令和6年度 新潟市公民館事業の基本方針について
- (3) その他

3 概要(意見・質問事項)

～事業経過報告について～

○曾野木地区公民館の事業番号7番「子どもの居場所」は多くの方に利用されているが、利用者層の幅が小学生から高校生まどとなり、その中でも多くの利用者は小学生だと思うが、利用者に対する配慮はあるのか。また、大人の見守りが必要と思うが、どうなっているか教えてほしい。

→「子どもの居場所」と「学習室開放」があり、「子ども居場所」は事務室前のフロアを使用しており、何かあれば職員が対応できる。「学習室」は、事務室の隣の講座室207・208のいずれかを使用しており、こちらも何かあれば対応できる体制であることから安全面は問題ない。フロアの利用で小学生同士であってもグループで利用しており、小学生がフロアで遊んでいれば、高校生は学習室を利用するなど、一緒に利用することは少ない状況であるので心配ない。(曾野木)

○亀田地区公民館の事業番号11番「家庭教育講演会」について、亀田東小学校へ講師を紹介したと聞いたが、他の学校等に講師紹介できる旨の広報は行ったか。事業番号14・15番の「学習室」関係について、少額ではあるが予算がついている理由と、曾野木地区公民館の10月末までの決算について、執行が少ないように思うが、今後の予算執行についてどうなのか教えてほしい。それと意見として、曾野木地区公民館のゆりかご学級の保育の人数(募集6名に対して12名)であったが、保育者や安全な場所の確保とか大変であるのに受け入れてくれたことに感謝したい。ゆりかご学級の赤ちゃんの

対象月齢が3か月と狭い対象ではあるが、公民館事業でも歴史ある事業でもあるので参加者が少なくても続けて行って欲しい。横越地区公民館の事業番号7番「保育室を開放している」では、横越地区公民館には床暖があってメリットも多くあり、他の施設とともに選んでいただければ良いと思う。その開放している場所には、人を配置しているか教えて欲しい。

→事業番号11番「家庭教育講演会」について、他の学校に案内していたかどうかについて、事前に亀田東小学校は相談を受けていたので紹介したが、他の学校については、特段相談等がなかったので案内は出していない。学習室の予算については、主に紙などの消耗品で、全体の予算についてはこれから執行する予定である。(亀田)

→曾野木地区公民館の予算については、これからの共生セミナーやゆりかご学級のクリーニング代等の経費を執行していないので、その経費を今後執行する予定。
(曾野木)

→横越地区公民館の「保育室を開放している」事業については、保育者は配置していない。利用の際に注意事項をお伝えし、名前等を記載していただき保護者の責任の下、利用してもらっている。(横越)

○ゆりかご学級が新潟市も力を入れてやっていて、参加した人も大きくなってから「よかった」と言ってくれ人が多いのだけれども、亀田の「ゆりかご学級」は執行額が少ないのは、保育者の関係かどうか。

→亀田地区のゆりかご学級については、募集した際には、まだ定員が半分だったということで、定員が少なかったので保育関係の経費の執行額が少なかった。(ゆりかご学級の場合、講師への謝金と、保育者への謝礼が予算の大半であるので2期について執行が少なかった。)(亀田)

○毎年予算が厳しい状況であるので、次年度に向けて消耗品や備品などを買ってもよいのではないかと思う。

○どの公民館も「子ども居場所」に熱心に取り組んでいる。家庭教育講演会はもっと小学校だけではなく保育園とか、子供がいる場所に声をかけるなど、連携してもらいたい。なかなか親御さんで公民館へ出てくるというのは大変なので、子供がお世話になっている場所での学びが充実するとよくなるのではないかと思った。

○横越地区公民館の事業番号14番「ユースセミナー」は、今年度始めた事業か。20～30歳向けの事業で大変難しいと思うが、次年度以降もやっていく事業か教えてほしい。

→今年度から新規に取り組んでいる事業で、20～30歳代をターゲットに行ったが、現実的には参加者が少なかった。担当者を中心に構想を練ったが、ターゲットとする人の間にマッチング的に開きがあったと思う。他館はハードルが低い部分もあるので、今年で終わるのではなく、10歳～30歳は空洞的な部分でもあるので、中学生が参加でき

る講座などを行って、中学生からの提案をコミ協なども入れて形にしていくことができると「ユースセミナー」が発展すると思う。また、中学校の部活動の地域移行もあるので、中学生も取り込んで一緒に考えていきたい。(横越)

→令和8年度から正式に新潟市では、中学校の部活動は運動部だけではなく、文化部も地域に移行しなければならない。そうなった場合に、学校現場で部活動が存続できるかということもあり、勤務時間内であれば部活動となるが、それ以外は外れる形なる。そうした中で公民館活動に中学生が参加できる場があればありがたいし、学校と連携できる部分是对応したいと思う。地域性もあるし、学校毎に事情も違うので、地域の公民館と連携を取りながら進めていった方が良いと思う。

○保護者の立場として小学校・中学校など、ユースの講座についてどう思うか。

→中学生が意外と忙しくて、土日も休みなく部活動をやっていたりするので、中学生から意見を聞くにしても難しい。学校の先生に負担がいかないように、また保護者でかわってくれる人が少ないので、慎重に考えていかななくてはならないと思う。

○学校の部活動の地域移行に伴って、公民館がどういう役割を果たしていくのか。中学校の部活動がどうなっていくのか。学校・教育委員会・社会教育関係とうまく連携をとっていかなくてはならない。子供たち、学校の現場に負担がかからないように、どこかでWIN WINの関係になれるようにしていかななくてはならない。小学校については、地域移行やユースの関連に含めての動きはどうか。

→小学校は特にないが、各公民館の話聞いていて、新規事業など色々な事業をしていてアイデアはすごいと思った。学校は色々なことをスリム化しなければならいと言いつつも、子供が食いついてくるものややっていかなければならない。新しいことに挑戦しなければならい。部活ではないが、小学校にクラブの時間があって、大体の学校が週に1時間ある。今はそのクラブをなくす学校もある。その時間をなくすという議論もあるが、なくしてその時間を勉強の時間に充てても子供たちは喜ばないだろうし、その時間を公民館と連携する時間にすることもありがたいと思った。

○子どもたちは平日の昼間は学校に行っているのだから、公民館で夏休みや春休みなどに子どもを対象に事業を行うなど、各公民館の方は頑張っていると思う。その中で横越地区公民館は新しい事業に取り組まれていることはすごいと思っており、事業番号22番の「こどものあそびば2023冬」は公民館探検クイズをしながら、いろいろな遊びを行うことは、子どもたちが公民館を知れるということで良いことではないかと思った。

○横越地区公民館「こどものあそびば2023冬」は、公民館に親しんでもらえる取り組みだと思う。

○語り部サークルは、ずっと公民館にお世話になっていて、公民館があるからみんなで集まれるし、文化祭の時に10年以上発表の場を設けていただいているので、様々な方に興

味を持っていただいたりして、それが私たちの小中学校や老健施設でのボランティア活動につながっている。また、会員のやる気にも繋がっている。公民館のおかげで、今年、県の社会福祉協議会のボランティアの表彰を受けることができた。各公民館で様々な工夫して事業を実施していることに感心している。今年初めてやった事業で、参加者が少ないからやめるのではなく、考えた目的は素晴らしいので、深く掘り下げたり、学校や児童館とつながって工夫していくことが大事なことだと思う。

○公民館があるから社会教育活動が継続され、他のところで活躍できたり、表彰をうけたりすることは、公民館が関わって各人が生涯学習として生き生きと学びをやっていけることは、公民館の大事な役割ではないかと思う。

○新潟市公民館事業の基本方針の中の3番の基本施策に当てはめていただいて、高齢者の活動もできており、また、自分たちの活動も気兼ねなくさせてもらっているので感謝している。

○参加者が少ないからやめるのではなく、3~4年やってみるなり、予算も厳しいかもしれないが、手を変え、品を変えやっていくことは大事なことだと思う。中間層が生き生きと活躍できる場を見つけていくこと、ユース層の場を設けるなど、負担にならないようにやっていけると良いと思う。

○「かめだ子どもフェスティバル」は元々吹奏楽の発表の場であったが、今年度はダンスの関係が3団体のみの参加であった。ダンスは色々と発表の場があると思う。この趣旨は、吹奏楽以外の文化の団体の発表の場であった方が良い。

→共催事業ということで、吹奏楽に限らず様々な部活や団体へ発表の場を提供しようと思った。学校の部活動の地域移行を控えており、部活動の先生の負担にもなり、保護者の協力がないと部活動での参加は厳しいと思っていたがその通りであった。今回、新体操、ヒップホップ、チアリーディングの3団体の参加で、フェスティバル当日の観覧者も少ないと思っていたが、一緒にやっている高校生が観に来たりして多くの観覧者があり、次年度はどうなるかわからないが、江南区全体に広げるのかどうかも含め検討したいと思う。部活動の地域移行は、スポーツの部活は受け皿があると思うが、文化系の吹奏楽や合唱の場合は地域の受け皿がどうなるのだろうかというところがあるので、様子も見ながら協力できることは協力していきたいと思う。(亀田)

○発表の場があると子どもたちの励みになる。吹奏楽、演劇、ダンス、合奏など、色々な子どもたちが発表できるよう育成協も含めて連携していければよいと思う。

○亀田東小学校で60周年の記念行事をやったが、様々なことで子供たちもパワーを感じた。公民館事業でも子供たちのパワーを使ってもらいたい。子どもたちは目標を決めていただければ力を発揮するので、発表の場をお願いしたい。

○目標や場を設定してあげれば、子供たちは色々なことを考えてやろうとするし、横の繋がりなど、学校や様々な団体と連携してやればよいと思う。

○子どもの事業の場合、子どもを送迎するのが大変だと思う。曾野木だと立地的に良いが、亀田に集まろうとすると、曾野木から遠くて交通手段だけ心配だと思う。

○子どもたちが公民館へ来るまでの手段というのは、大きな課題だと思う。

(まとめ)

○いくつかの点が出た。新規事業をしっかりと継続的に頑張っ取り組んでいくこと。中学生、ミドルエイジの子供たちをしっかりと地域で支えていくこと。公民館が生涯学習の若手の結節点として事業をどう展開していくか。公民館に集まってくる子供たちの足をどこまで考慮するか、次年度以降の事業や予算などの大きなテーマになると思う。

～令和6年度 新潟市公民館事業の基本方針について～

○基本方針については、委員の皆様から守ってもらいたいといわれているので、絵に描いた餅にならないように、具体的に厳しい予算の中でやっていくことが大事だと思う。公民館の活動が面白くなって、学校で提供することができない場を提供してもらえることがすごく大事だと思うので、うまくやっていただきたいと思う。